香美市文芸 風の流れ

【短歌】 岡崎　桜雲　選

相共の日のなつかしく町裏に出で来て見廻る新葉の桜　坂上のぶ子
毎日が総て夫に感謝の日生きてる時は気づかなけれど　畠山　千江
子育ての愛しき日々は短くも思い出新た節句巡り来る　原　茂
素敵なもの送ってほしいと幼な孫婆は何もてそに答ふべし　中村　紫乃
疎開地で現の証拠を供出と皇后書かれし花里に咲く　森本　幸美
はつなつの風に吹かれて野を歩くうすべに色のつつじ愛らし　山﨑　貴子
伊弉諾の大鳥居抜け参拝す陛下のご在位祝す記帳も　五百蔵利美
痛い痛いと冬を籠れば茎立ちてべんべん草は撥肥やしゐき　大岸由起子
五右衛門風呂を満たせし井戸水ふるさとの釣瓶もまぼろし吾が知るのみに　岡村　敏子
側壁に車かすりし夕暮れ時カフェのドアをまた振り向きつ　西野地　薫
桜花寒気の中に淡雪載せ陽光受けて気品漂う　岡本　初美
若き日の思い出遠く消えゆきぬ今この時間は風の向こうに　高田　清子
草引きや剪定頼みすっきりと一泊もせずに帰り来むなし　盛岡　雛子
親代りせし子より届きし桜餅芹の若菜も添えてくれあり　小原　子川
穿き慣れし母のもんぺの柔らかく寒き日今日も私を包む　小松　敏子
朝の庭福寿草咲きてひかりさし心穏やかに今日も過ぎゆく　公文　千恵
「皇后を労いたい」と仰せらるる陛下のお言葉に胸の詰まりぬ　吉本　悦子
嫌なら飲むなと言はむばかりに苦手なる錠剤ひとつ掌より逃ぐるも　竹村　咲子
あふれ咲く「いぬのふぐり」の青い花ためらいながら鍬を打ち込む　松中　賀代
田起しの合図のごとく水嵩増し流れに乗りて小夏が一個　大石　綏子
幽明な水族館に泳ぎいる菅笠ほどのかめの迫力　門田　明子
リフォームの作業着つくる着古せしYシャツにとりどりの端切れ合はせて　小松　禮子

無粋なるわれと思ひぬ連翹に白木蓮・桃にボケも盛りに　古川　安子
前山の段畑に菜の花咲きてをりわが家の木蓮も咲き盛りたり　林田　幸子
ガン告知されし貴女の言葉沁む「絶対治る」の信念持ってね　武内　弘子
梅林の地面にぺたり葉をひろげ西洋タンポポ天仰ぎ咲く　公文　正子
これの世の密かに進む現象か師走の畑に菜の花咲けり　小松もとみ
とどめがたく記憶毀れてゆくときにフェルメール展ムンク展あり　佐竹　玲子
児のごとく耕耘機につきて虫さがす鷺に農夫は楽しみゐるか　都築　初代
子育て終えマイホーム建て墓地移転老後の暮らし元気にしてます　古谷　由美
この雨の上がれば寒くなるらんと友は窯焼きのピザ出しくるる　佐々木真里
一畑かせめて二本を残したし銀杏伐採へのわが無力感　小松　信子
外泊で妻と一緒に見た桜ことしも赤く咲きはじめたり　宮地　亀好
元農地次々モダンな家が建ち帰省の子等は浦島太郎に　刈谷美代子
釘入れて見様見真似に茄子漬ける母の極意のかのるり色に　岩井　純子
神宿る山潤して物部川深き緑の水の清さよ　秋　星
医者の息子に自愛と言いて目が潤む四十過ぎても母には幼子　寺内　啓子
幾たびの躓き知りし茶の帛紗ぽんと捌きて馴染みの中へ　町　耿子
初めての正月迎え生後六月屠蘇器の熨斗を興味津々　明石　敬恵
紅葉狩りうどんも食べてみち足りてショッピングへと山から街へ　古川　恵
住む人は居なくなってもお屋敷はどんと建ってる思い出の町角　中村　佐代
倒れても畑を黄色に広く咲く元気をうながす皇帝ひまわり　野村　典子
お供えと夫の好物送りくれし友の優しさ位牌に告げる　野島　富石

俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載を希望される方は、掲載月の前月1日までに、ご応募ください。

【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782−8501（住所記載不要）　FAX53−5958

図書館だより

市立図書館

◆ブックスタート開始！

赤ちゃんと一緒に絵本を楽しんでもらおうと、4月から4カ月児健診の時に絵本をプレゼントしています。

ブックスタートとは、イギリスではじまり、日本が世界で2カ国目に開始した活動です。絵本を**読む**のではなく、赤ちゃんと絵本を開く楽しいひとときを**共にする**ことができるよう、司書おすすめの絵本の中から一冊プレゼントいたします。

◆祝日開館のお知らせ

5月1日（水）～5月6日（月）まで、本館・分館とも休まず開館します。

3館では、『平成』をテーマに、平成の30年間に出版された本、平成を代表する出来事が書かれた図書を展示しています。平成の時代を一緒に振り返ってみませんか。

◆子ども司書養成講座

香美市教育委員会では、今年度も引き続き子ども司書養成講座を開催いたします。本の知識と楽しさをお友達に伝える存在になりましょう。

【内容】 基礎研修、実技・実地研修、専門研修

6月に学校を通して募集要項を配布します。たくさんのご応募お待ちしています。

◆図書館ボランティア募集

図書館では、いろいろなイベントや作業をお手伝いしていただけるボランティアの方を随時募集しています。

皆さんのご協力をお待ちしています。（読み聞かせ、図書館の環境づくり、イベントの企画・運営、本の整理など）

◆移動図書館のお知らせ

今年も県立図書館から移動図書館がやってきます。バスの中から本を借りることができます。たくさんの本と出会う良い機会ですのでぜひご来館ください。

開催日時については、広報のカレンダーをご覧ください。

Pick Up

新世界
西野亮廣　著

圧倒的な行動力とスピード感を持ち、常識にとらわれない感性で事業を成功させている西野氏。一歩踏み出すことに躊躇している人に読んでもらいたい一冊。

平成くん、さようなら
古市憲寿　著

平成に生まれた『平成くん』。平成の終わりと共に安楽死をしたいと恋人に告げる。
独特の世界観と倫理観で描かれた一冊。

私はすでに死んでいる
アニル・アナンサスワーミー　著

「自分の脳は死んでいる」と感じる症状、「足を切断したくてたまらない」身体の一部に違和感を感じる症状など、その病の実情と脳の謎に迫る。

吉井勇記念館だより

吉井勇作品紹介

師も弟子もみな年若く長崎に
往きし日遠し夢のごとくに
長崎の街を歩めば目にうかぶ
与謝野の大人の黒き背広も

※歌集『旅塵』昭和19年より

明治40年8月、吉井勇は新詩社の師である与謝野寛と同人である北原白秋、平野万里、木下杢太郎の5人で九州を旅しました。当時、与謝野寛は35歳、弟子たちは22、23歳でした。この旅は東京二六新聞に紀行文『五足の靴』として全29回掲載されました。「五足の靴が五個の人間を運んで東京を出た。」から始まるこの紀行文は、5人が匿名で執筆し、それぞれの文章に個性や感性が表れています。

▲前列左から平野万里、吉井勇、2列目左から与謝野寛、木下杢太郎後列中央が北原白秋。

現在展示中の企画展『吉井勇と五足の靴—九州旅行と南蛮文学—』では、5人の旅の様子を紀行文や資料を交えて紹介しています。ぜひ、ご来館ください。

また、左記の日程で、資料を読み解きながらの展示解説も開催します。

【日時】 5月25日（土）13時30分～15時30分

※要申込、入館料が必要です。

◆問い合わせ先　吉井勇記念館　☎58・2220